

第1期 小郡寺子屋「志学舎」報告書【第6講座】

開催日 2022年8月17日(水)～2022年8月20日(土)

- 場所 萩セミナーハウス(萩市大字堀内211-1)
須佐湾エコロジーキャンプ場(萩市大字須佐787)
萩博物館(萩市大字堀内355) 緑栄窯(萩市椿2153-4) 明倫学舎(萩市江向602)
小郡市生涯学習センター(小郡市大板井)

● 参加者

■ 第1期生15名(欠席1名)

■ 木村 貴志 塾長 / 森 就子(事務局) / 井上 和樹(事務局) / 西山 茂代(事務局)
中村 加奈子(Vision&Education, Ltd 研究員) / 笹月 将(Vision&Education, Ltd 研究員)

● 内容 小郡寺子屋「志学舎」萩合宿

【第1日目(8/17)】

- 7:20～7:30 出欠確認・小郡市生涯学習センター出発
- 7:30～10:30 移動中、車内にてDVD「炎の如く吉田松陰」視聴
- 10:30～11:30 松陰記念館見学
- 11:45～13:00 昼食(「松陰食堂」にてざるそば)
- 13:10～15:20 松陰神社、吉田松陰歴史館、吉田松陰墓所・生誕地見学
- 16:00～16:40 萩市長表敬訪問
- 17:00～19:45 萩セミナーハウス到着・入浴・夕食(食堂にてハンバーグ)
- 19:55～22:30 ミーティング(本日の振り返り・明日の活動確認)

■ 松陰記念館見学

○吉田松陰の一生について(年表・絵)

- ・11歳 藩主毛利敬親の前で初めて「武教全書」の講義を行う
- ・16歳 山田亦介の門に入り、世界の大事に目を開く
- ・17歳 山田宇右衛門から「坤輿図識」を贈られ、その説に感じて外患を憂え、防衛など研究
- ・21～24歳 九州・江戸・東北などを遊学・旅行し、様々な人物と交流する
- ・25歳 金子重之助と下田来航中のアメリカ軍艦ポーパタン号に乗り込み、海外渡航を企てたが失敗
- ・26歳 投獄中、獄囚に「孟子」の講義を行う
- ・28歳 松下村塾を創設(29歳の時に、門人が増え、塾舎が狭いため増築)
- ・30歳 江戸にて処刑される。

○松下村塾の講義の様子

- ・一人一人が別々の教育内容
- ・松陰は、門人が自分で気づき、反省できるよう優しい口調
- ・実行することが第一であり、学者(動かないこと)はよくないこと
- ・具体的な例を示して教える ・門人と共に学ぶ姿勢

○松陰と旅(日本地図)

- ・松陰が生きた時代の交通手段は徒歩しかなかったが、東北・江戸・九州を旅しており、生涯で歩いた旅路は1万2,500kmにも及んだ

○留魂録(吉田松陰の遺書)

- ・自分のしてきたことが「もみがら」なのか成熟した「米粒」なのかは私が知るころではない。もし同志のなかで私の志を受け継ぐ人があれば、撒かれた種子が絶えないで、穀物が年から年へと実っているのとかわりはないことになろう。



■ 松下村塾

○杉家宅で幽閉されていた吉田松陰が、家族などを相手に「孟子」の講義を行った。近隣の子弟が大勢参加するようになると、増築を行った。現存しているのが、まさに吉田松陰が門下生に講義を行った建物



■ 松陰神社・松門神社

○手水の作法

- ①右手で柄杓を持ち、水をすくう
- ②最初に左手を洗い、持ち替えて右手を洗う
- ③もう一度右手で柄杓をもち、左手に水をためて、その水で口をすすぐ
- ④もう一度左手を洗い、柄杓を立てて柄の部分を使い、元の位置に戻す

○お参りの作法（二礼二拍手一礼）

- ①深いお辞儀を2回する ②拍手を2回打つ
- ③両手を合わせ祈る ④もう一度お辞儀をする

○松門神社は門下生の社であり、先生と門下生の社が同じ場所にあるところは少ない。



■ 吉田松陰歴史館

○吉田松陰の生涯を多くのろう人形で再現。車中で見たDVDでも出てきた場面が再現されている。

<塾長より>

- ・松陰は生涯で多くの本を読んでいる。ただ本を眺めていただけではない。
- ・松陰のように意見が合わない人とも話すことが必要である。
- ・松陰が死の間際においても自分の思い（日本の未来）を残したいと思い、留魂録を残した。

■ 玉木文之進旧宅（松下村塾発祥の地）

○和室のマナーについて振り返り

- ・敷居と畳の縁は踏まない
- ・床の間は武士の命でもある刀を飾るところであるため、床の間に背を向けて座らない など



■ 墓所・吉田松陰生誕地

○吉田松陰の墓の他、高杉晋作などの門下生の墓もある

○杉家は26石しかない武家であったため、松陰の生家は狭い

○行啓記念樹：昭和天皇が皇太子の時に来られたのを記念して植えられたもの

<塾長より>

- ・歴史は年号や名前を覚えるだけでなく、その時の時代背景・人物心情を読み取ることが大事



《吉田松陰先生銅像前にて班毎に記念撮影》



■ 萩市長表敬訪問

○萩市長 田中 文夫 様 から歓迎のことば

目標・志を立ててまっしぐらに前に進んだ松陰は、門下生が90人以上いたが、上下問わず指導を行った。この地での3泊4日の研修は充実したものになると思う。地域を担う一員となることを期待している。疑問を持ちながら夢を育てていくことが大事。

松陰は、皆さんに何がしたいのかを問うているのではないだろうか？

一生懸命学び、楽しみ、多くの仲間ができる合宿となるよう願っている。

○木村塾長 あいさつ

この合宿では塾生に3つのことを感じてほしいと思う。一つ目は、チームとなること、思いが合わさって寺子屋の事業・萩合宿ができていることを感じてほしい。二つ目は、生きた歴史を学んでほしい。三つ目は豊かな自然に触れてほしい。

○塾生一人一人の自己紹介（学校名・学年・萩合宿で学びたいこと）

○萩市役所から、記念品として「松陰先生のことば」の冊子を一人一冊いただきました。

《萩市長表敬訪問の様子》



■ ミーティング（本日の振り返り・明日の活動確認）

○ノートに本日の①楽しかったこと②良かったこと③反省点（個人・グループ・全体）

④改善点⑤その他を書きだす。

<塾生の発表>

①楽しかったこと・・・人とおしゃべりすることができた。夏みかんジュースを飲めた。

②良かったこと・・・吉田松陰の一生を知ることができた。

③反省点・・・詳しく話を聴けばよかった。自己紹介のとき自分が考えていたことと違うことを言った

<塾長より（本日の反省）>

- ・塾生の皆さんは萩に何をしに来たのかと思った。今日行った場所は、バスの中で見たDVDでも出てくる箇所が多いのだが、バスの中で眠気に負けてしまった人は、DVDを見た人が100の情報が入ってくる中、10~20程度の情報しか得られていない。自分の意志の力で行動できたかどうか。
- ・ほとんどの塾生が、大きい荷物を親が持っていた。自分のことは自分でする。甘いと思う。
- ・萩市長表敬訪問の際の自己紹介の内容は、何人かは良かった人がいたが、多くが萩焼のことを言っており残念。話はキャッチボールであり、萩市長の話にきちんと返した人がいなかったのが残念。自分がこう思うということが大事。
- ・萩市はなぜ皆さんを「歓迎」してくれたのか。それは将来の担い手として期待しているから。アンテナを高く張り、いろいろなことをキャッチする力が必要。
- ・何度も言っているが、話を攻撃的に聴くこと。
- ・人生・仕事＝言葉・行動であり、言葉・行動の土台は考え方。人間は言葉でしか考えられない。

<塾長より（明日以降に向けて）>

- ・応答する（反応する）ことが大事。（相手が話をしても黙ってしまうのはNG）
- ・2つのことを同時にするのは美しくない。（髪が濡れているため、タオルを肩にかけて食事するなど）
- ・周りを見る力が足りていない。自分だけが・・・はやめる。
- ・向上心をもつ。受け身はやめる。あたりまえだと思わない。
- ・具体的に話す。（「いろいろ」とか「たくさん」とかでごまかさない。）
- ・失敗してもいいのでチャレンジをする。失敗したら必ず改善する。

《萩セミナーハウスでの様子》



【第2日目 (8/18)】

- | | |
|-------------|-----------------------------|
| 5:00~5:30 | 起床・出発準備 |
| 5:45~7:30 | 潟港にて釣り体験 |
| 8:00~10:00 | 朝食（ライト朝食 パン）及び清掃、出発準備 |
| 10:15~11:15 | 道の駅「萩シーマート」にてバーベキューの買い物 |
| 11:30~13:30 | 萩博物館見学、博物館内レストランで昼食（魚フライ定食） |
| 13:30~15:00 | 萩城下町散策 |
| 16:00~20:00 | 「須佐湾エコロジーキャンプ場」にてバーベキュー |
| 22:00~23:00 | 花火・笹月研究員による星空解説 |

■ 潟港での釣り体験

- 地元の鷹ノ木さんから①釣り竿の組み立て方②釣り糸の付け方③釣り針・餌かごの取り付け方④釣り竿の使い方を教わりました。塾生たちは話をしっかり聞き、自分の力で釣りの準備を行い、釣りを開始。最初は魚を怖がっていましたが、徐々に慣れ、多くの魚を釣ることができました。



■ 菊ヶ浜海水浴場

- 萩シーマートへ行く途中、菊ヶ浜海水浴場へ立ち寄りしました。白い砂浜ときれいな海に、塾生たちは大はしゃぎでした。



■ 道の駅「萩しーまーと」にてバーベキューの買い物

○塾生たちは3つの班に分かれ、予算5,000円でバーベキューの食材を購入しました。

肉・魚・野菜・果物などの食材を、班員と相談し、時にはケンカしながら、予算の範囲内に収まるよう購入していきました。



■ 萩博物館見学

○特別展（めざせ！！貝のトレジャー王国）

- ・世界中の貝が約20,000点展示。形や色、大きささまざまな貝が展示。
- ・見島で発見されたユリヤガイを題材に、人間による環境破壊を意識させる映像を視聴。

○常設展

①歴史展示室

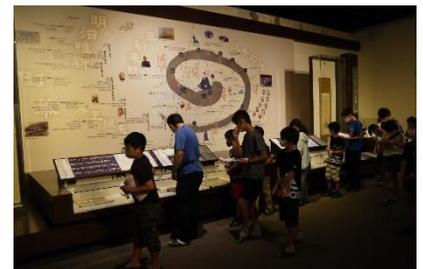
- ・萩は三角州にできた街であり、昔から水との闘いであった。
- ・中国地方の有力大名だった毛利家は、関ヶ原の合戦で敗れ、萩に押し込められた。
- ・今は観光地にもなっている「お台場」は、江戸時代は大砲の置き場だった。この大砲によりペリーは江戸湾に入ることができなかった。

②人と自然の展示室

- ・萩の自然環境やいきもの、先人たちが紡いできた歴史文化を紹介

③高杉晋作資料室

- ・吉田松陰の門下生であった高杉晋作にまつわる資料が展示されている。



■ 萩城下町散策

①田中義一生誕地

- ・萩の乱に参加。軍人として陸軍大臣となる。その後内閣総理大臣や外務大臣を兼務。

②高杉晋作誕生地

- ・吉田松陰が育てていた門下生。辞世の句「おもしろきこともなき世をおもしろく」（世界は自分の気持ち一つで面白くできる）。外国の状況を知り、「奇兵隊」を組織する。

③円政寺

- ・お寺と神社が一つのところにある、日本において数少ない場所（神仏分離令によりほとんどのお寺と神社は分離されたが、円政寺は天皇と関わりのある寺院ということで分離されなかった）
- ・円政寺は11歳の伊藤博文が預けられ、勉学に励んだ
- ・金毘羅社にある天狗の面は、高杉晋作が子どものころ、この面を見て物おそれないようにしつけられた。
- ・境内にある石灯籠は免震構造となっており、地震が起きても倒れないようになっている。



④プチカフェ さくら木

- ・炎天下での城下町散策の最後は、夏みかんソフトクリームで熱くなった体をクールダウンしました。



■ 須佐湾エコロジーキャンプ場にてバーベキュー

○班毎にバーベキューの準備を自分たちで行いました。

食材（肉・野菜）の下ごしらえ、火おこしなどすべて自分たちで行い、おいしくいただきました。

バーベキュー会場の電灯が着かないというハプニングがあり、片付けは当初の予定と異なりましたが、みんなで協力してスムーズに終わりました。

○朝釣り上げた小アジは、塾長に教わりながらみんなで手さばきました。

最初は上手いかなかったのですが、すぐにコツをつかんだ様子でした。

手さばきたアジは、塾長が揚げ物にし、みんなでおいしくいただきました。



《バーベキューの様子》



■ 花火・笹月研究員による星空解説

○バーベキューの後、コテージのベッドメイク・入浴等をすませ、みんなで花火をしました。

風が強く、ろうそくの灯が消えることもしばしばありましたが、みんなで協力して花火を楽しみました。

花火の後は、プラネタリウムで解説の仕事をしていた笹月研究員による星空解説がありました。

キャンプ場の夜空は、小郡の空と違って街灯などの明かりがなく、天の川がはっきりと見えました。

笹月研究員からは、星座の話、北極星の話、いるか座の存在などの話を聴くことができました。



《2日目の様子》



【第3日目 (8/19)】

6:00~8:00	起床・朝食（おにぎり・味噌汁）・出発準備
9:00~12:00	緑栄窯にて萩焼体験
12:30~13:30	昼食（カフェ・レストラン萩曆にてハヤシライス）
14:00~15:30	萩・明倫学舎見学
16:00~18:00	研修「萩合宿で、私が感じたこと・気づいたこと・学んだこと」
18:00~20:00	入浴・休憩・夕食（萩セミナーハウスにて鶏のから揚げ）
20:30~22:30	研修「解散式でのスピーチに向けて」

■ 朝食

○朝食は、塾長が一つずつ握ったおにぎり、だしにこだわった味噌汁、前日に残った野菜で作ったお好み焼きをいただきました。



■ 緑栄窯にて萩焼体験

○緑栄窯において、松野創平さん夫妻に「手びねり」「電動ろくろ」の仕方を教わりました。

手びねりでは、自分の思うような形にならず、悪戦苦闘していましたが、松野さんに質問するなどして、自分の力で作品を完成させていました。

電動ろくろでは、最初は堅かった粘土が薄くなるたびにどんどん柔らかくなっていき、添えた手をまっすぐ上にあげないとすぐに形が崩れてしまうことに難しさを感じました。



■ 萩・明倫学舎見学

○明倫学舎の校舎は、国内最大の木造建築（4棟）。築87年、廊下は90mある。

○明倫学舎や萩駅は文化財に指定されている

- ・明治時代に発展したが、江戸時代末頃にこの地で何があったのか？

○萩の街並み

- ・碁盤の目となっており、現代にまで残っている（京都と同様）
- ・天皇家にルーツがある毛利輝元が関ヶ原の合戦で敗れ、萩に滅封されたことがきっかけ。
- ・毛利輝元の祖先である大江氏は、学問に力を入れており、これが明治維新の中心となった人物を輩出することにつながった。
- ・萩藩は小さい藩だったが、教育水準は高かった。特に松下村塾は92名の門下生がいるなど、私塾が栄えた。

○アヘン戦争で中国がイギリスに負けたことはかなりの衝撃となった。欧米列強の日本への進出が目前に迫っていたから。

- ・欧米に対抗するため、萩反射炉・恵比寿ヶ鼻造船所を建設
⇒日本の近代化にチャレンジした証。明治産業改革のストーリーのはじまり



○幕末期、長州藩は欧米列強の海外進出を目の当たりし、国力の差を感じたため、国禁を破って5人の若者をイギリスへ密留学させた。その5人がのち長州ファイブと呼ばれ、日本の近代化への道を開いた。

- ・伊藤 博文・・・初代内閣総理大臣。「内閣の父」
- ・井上 馨・・・外務大臣。維新外交の始祖。「外交の父」
- ・山尾 庸三・・・工部大学校設立。「工学の父」
- ・遠藤 謹助・・・大阪造幣局長。「造幣の父」
- ・井上 勝・・・鉄道庁長官。「鉄道の父」



○廃藩置県により武士が職を失ったところ、夏みかんが高く売れたため、栽培がさかんとなった。

○海国図志は中国で書かれた本であり、欧米がいかにして強くなったかが書かれている。

吉田松陰は本書を獄中で読み、欧米事情を学びつつ、どのようにそれらに対抗するかを考えていた。

○坤輿図識は世界地理書であり、現在の世界地図と比べても大差ないほど正確に記載されている。

日本列島についても正確に記載されており、正確な地図は強力な武器となりえるため、欧米の技術力の高さがうかがえる。

《萩・明倫学舎での様子》



■ 研修「萩合宿で、私が感じたこと・気づいたこと・学んだこと」

○合宿要項を見ながら、萩合宿で自分が感じたこと・気づいたこと・学んだことを書きだしていく

○班になって、一人ひとり書いたことを話し、他の人の意見を自分のスピーチの参考にする。

＜塾長より＞

- ・松陰記念館のなかでも松陰先生がいていたが、さぼらないことが大事
- ・感想を「すごい」で片づけない
- ・できなかったことができるようになったことに人間は喜びを感じる。
- ・物事をくっつけて話すと、内容が増えてよくなる ⇒ 膨らませることを書き加える。

■ 研修「解散式でのスピーチに向けて」

○スピーチの際は前の人のお話を集中して聴くことが大事。しっかり聞いていれば臨機応変に対応可能。

○考え・思いを深めることに意識が向いていないように見える

【映像視聴】

- ・長州ファイブ（映画のPV）・・・5人のなかには13歳の子もいた。どう感じるか？
- ・裸の男とリーダーシップ・・・ムーブメントを作るフォロワーにもっとなってほしい。
- ・「志」に関する映像（植松さんのスピーチ）

＜塾長より＞

- ・これからの日本が大変になる中、みんなに立派な人間になってもらいたいとの思いでこの志学舎がいろいろな人の支援でできていることについて、みなさんがどう受け止めるか？
- ・最初の一人になる、もしくはそのフォロワーになる気持ちがみんなの中にあっただか？
- ・いろいろな思いが伝わってきて、たくさんヒントがあったと思う。

○明日のスピーチに向けて、シナリオを作成。

○作成したシナリオを元に、声に出してスピーチの練習（内容を精査しながら）

○何も見ずに、頭に残っていることを元にロジックツリーを作成する。

○作成したロジックツリーを元にスピーチの練習（できるだけ見ないようにしながら）

○自分軸だけでなく、相手軸も考えて発言・行動できるようになっていく必要がある。



《3日目の様子》



【第4日目 (8/20)】

- 6:00~ 8:00 起床・朝食（和食）
- 8:00~12:20 研修「解散式でのスピーチに向けて」・まとめ
- 12:20~13:30 昼食（弁当）・清掃・出発準備
- 17:00~18:30 萩合宿解散式

■ 研修「解散式でのスピーチに向けて」

＜スピーチに向けて塾長より＞

- ・その時の感情を再現する
- ・具体的に、イメージがわく言葉を使う
(犬 ⇒ ブルドッグ、花 ⇒ 桜 など)
- ・書き言葉で話さないようにする
- ・主語、述語を明確に話す
- ・貴重な体験、二度とない体験なので、思い（想い）がある話にする

○解散式で放映するスライドショーをみて今回の合宿の振り返り

○スライドショーをみて再度ロジックツリーを作成

○ロジックツリーを元に声を出してスピーチ（その場で） ⇒ 推敲 を繰り返す

○小さい紙にスピーチの骨組み・柱だけを書く ⇒ それを見てスピーチ

＜塾長より＞

・プレゼンテーションスキル 3つの要素 がある

①シナリオスキル（組立・順番・具体例）・・・今鍛えているもの

②デリバリースキル（声の大きさ・呼吸・間・言葉遣い・身振り手振り・表情・態度・姿勢 など）

・・・相手に話を届けるのに必要なスキル。内容がどれだけよくてもここが足りないと伝わらない。

③プレゼンスキル（全人格・外見・内面）・・・ごまかしようがないもの。

・この合宿で心の底から感じたものを率直に伝えるだけでよい。

○二人組になって、人間を相手にスピーチを行う。相手のスピーチを聞いて改善点を伝える。

○プレスピーチ。一人ひとりが前面に立ち、みんなの前でスピーチを行う。

・塾長からのアドバイスを受け、最終調整を行う。



■ まとめ

◎スタッフから一言

・中村 加奈子

4日間いろいろな経験をしたと思います。人によって楽しかったと感じたことが違うと思うけど、それが解散式のスピーチで、聴いてくれる保護者の方や加地市長に一つでも伝わるスピーチができたらいいいと思います。4日間、楽しかったです。ありがとうございました。

・笹月 将

みなさんにお伝えしたいことはいろいろありますけど一つ目は「ありがとう」ということです。この人誰みみたいな感じで始まったと思うけど、話しかけるとちゃんと答えてくれたし、夏みかんのことで一気に打ち解けることができたと思います。星空の話もみんなと共有することができ、自分自身の学び・自信になりました。二つ目は、今回の合宿でたくさんのことを学んだと思うけど、学んだことを今日の帰りから思い出し続けていくことが大事だということです。そうすることが、これからのみんなの学びに重要なことだと思います。同じ一期生（バッカーズ九州寺子屋）としてみんなが頑張っていくところを応援していきたいと思います。ありがとうございました。

・西山 茂代

合宿に来る前に3つ心配していることがありました。一つは、今回皆さん1期生で、我々スタッフも初めてのことでしたので無事に終わるかと思っていましたが、皆さんの協力もあって無事に終わりました。二つ目は健康のことです。新型コロナの感染が拡大していたので、体調を崩したり、大けがをしたりしないかと思っていましたが、皆さんが無事で4日間過ごせたのでとてもうれしかったです。三つ目は天気のことです。先週くらいまでは萩は雨の予報でした、4日間とも晴れて予定していたことがすべてできてよかったと思います。4日間楽しく過ごせてよかったと思います。ありがとうございました。

・井上 和樹

この4日間を通して驚いたことや感じたことがいろいろありました。まず、要項をみて、朝5時・6時に起きる、寝るのは23時ということ、誰か寝坊する人がいるのではないかと考えていましたが、寝坊した人はいませんでした。これは皆さんの意識が高いからだと思います。次に、1日目と2日目で皆さんの行動・顔つきがごろっと変わったことです。1日目の塾長からの指導を心に刻んだんだと思いますが、皆さんの成長の速さに驚きました。あと、自分自身として感じたことですが、体力が重要ということです。麻生さんも言われていましたが、皆さん体力を鍛えましょう。これからもよろしくお願いします。

■ 萩合宿解散式

【出席者】

- ・主催者代表：小郡市長 加地 良光
- ・支援者：久留米法人会 副会長 中上 保範 様
- ・実行委員：NPO法人元気っ子未来塾 大場 美紀 様
- ・塾生の保護者の皆様【29名】

○スライドショーにて合宿振り返り

- ・「失敗してもいいので、自分たちでやること」を中心にしている。

○表彰式

- ・釣りコンテスト・・・第1位 Aさん (37匹)
第2位 Bさん (36匹)
第3位 Cさん (34匹)
- ・ベストリーダー賞・・・該当なし
(全体のリーダーとして合宿をけん引した塾生)
- ・ベストサポート賞・・・Dさん
(全体のことを考えて様々なサポートをした塾生)
- ・ムードメーカー賞・・・Eさん
(全体の雰囲気をよくしてくれた塾生)



○塾生スピーチ「萩合宿で感じたこと・気づいたこと・学んだこと」

☆Fさん

萩合宿で感じたこと・気づいたこと・学んだことは3つあります。一つ目は吉田松陰についてです。吉田松陰は萩にたくさんの塾や歴史館がありすごいなと感じました。吉田松陰が作った塾は、今の学校や塾と同じだとおもっていました。しかし、松下村塾では一人一人の考え方に応じて学べるので、今の学校もそんな風にしてほしいと思いました。二つ目は萩焼についてです。萩焼は少しでも空気が入ってしまったら爆発してしまうことを知り、緊張しながら作りました。三つ目は友達の大切さです。この合宿では早く起きることがたくさんありましたが、友達と協力して友達を起こしてあげたりしました。バーベキューの時に友達がいると、楽しく話し合っただけでバーベキューをすることができました。これからは友達と支えあって、これからの講座も楽しく学べるようにしていきたいと思いました。



☆Gさん

萩合宿で感じたこと・気づいたこと・学んだことは3つあります。一つ目は自信がついたことです。そのことを感じたのは釣りの時です。自分で釣り竿を組み立てて、その釣り竿で魚が釣れたので、とても自信ができました。二つ目は協力することの大切さを学んだことについてです。バーベキューの時に協力することで火おこしや後片付けがとてもスムーズにいき、協力することは大切だと改めて気づきました。一から自分たちで準備してとても大変でした。なのでいつも準備してくれている家族や大人たちに感謝の言葉をいいたいなと思いました。そして少しでも手伝いたいなと思いました。三つ目は友達の大切さについて学んだことです。友達がたくさんできたことで、アドバイスしてくれる友達もいました。友達がアドバイスしてくれるからこそ気づかされる部分があるんだなとおもいました。つまり一言でいうと、学んだり、考えたりもしたし、遊んだり楽しんだりもして、今まで体験したことのない4日間でした。



○久留米法人会 副会長 中上 保範 様

3泊4日の合宿を楽しく、またいろいろな事を学んで、今後の人生の糧になると思います。自分の孫にも皆さんのような経験をしてほしいなと、皆さんのお話を聴いて思いました。今後も大いに頑張ってください。お疲れ様でした。

○NPO法人元気っ子未来塾 大場 美紀 様

皆さんのスピーチを聞いて、感じる事が3つありました。本当にこの合宿が楽しくて、大事な友達ができた素敵な合宿だったんだということ。歴史からいろんなことを学んで、これから皆さんの人生に大きな糧になったのではないかとということ。大切な仲間と一緒にこれから歩いていく、これからの志学舎を通して友情がさらに深まり、皆さんの人生の糧になることを力強く感じました。まだまだ道半ばだと思いますが、最後までしっかり頑張っていたいただきたいと思います。お疲れ様でした。

○主催者代表 小郡市長 加地 良光

コロナ禍のなかで合宿ができるか心配していましたが、皆さん元気に帰ってきて、素晴らしいスピーチを聞かせてもらってとてもうれしく思っています。今感じていることを3つ言います。一つは、萩の美しい景色、豊かな歴史と文化が皆さんにとっていい経験になったことを言葉から感じました。二つ目は、同じ経験をして感じるものが違う、感動するものがちがうというのはすごいと思いました。その違いがそれぞれの個性だと思います。これから学びあう中で、周りの人が感じていることについて、お互いに感じあってほしい、学びあってほしい、そんな仲間なんじゃないかなと思います。三つ目は送り出してくれたご家族の方に感謝の気持ちを表してほしいと思っています。家に帰ったらたつぷりと合宿での経験を語ってほしいと思います。この合宿を通して、みんなは友達になったと思いますが、自分の将来・志を磨きあう本当の仲間になる第一歩をスタートしたと思っています。残りの講座を通して自分のこれから目指すところと一緒に磨きあって、素晴らしい人生のスタートとしてほしいと思います。皆さんの成長を心から願っています。頑張ってください。